



70歳からの夢想

相談役 三枝与一



20歳代の無限の可能性を秘めた夢と比べ、70歳代ともなれば当然夢もしぼみ小さくなり残り時間も少なくなつて手の届く範囲も限られ寂しい気持ちになるが、そこは長い人生で身につけた賢い知恵と経験で世間を渡り歩き今迄自分の能力の限界を嫌というほど知り尽くしているので必然的に途方も無い夢は見ないようになってきた。

私が小学校低学年の頃、春早く喧嘩蜘蛛の幼虫を採集に行った山間の部落には文久、元治、慶応生まれの老人たちがまだ元気に、野

良仕事や山の温かい南斜面に敷いた蓆の上で元気に藁草履を作っていた。子供たちも周りに集まって蒸かし芋を食べながら明治維新で激動する日本の様子を子供にも解るように面白、おかしく話してくれた。特に戦争(日清、日露)の勝利した時の話は、太平洋戦争で負けて間もない時で子供心にも意気消沈していたので皆興奮して膝を乗り出して時間の経つのも忘れて聞き入っていた。贅沢はせず質素で、きちんとリズムを持って生活をしながら元気で長生きをしている、そんな老人たちを身近に見て育った。

私の親、兄弟の中でも幸運な事に病気、や事故で早世したもの無く、母も11人の子供を育て、5人の子供を戦争に送り出したが終戦後、5人とも九死に一生を得て無事帰り長男を8年前に83歳で欠いた他は皆80歳を超えても元気である。その母も103歳で一昨年年寿を全うした。100歳近くまで趣味の畑仕事を続けていた母の健康の秘訣は早寝早起き、大事な来客があっても8時に布団に入り、朝5時には起き仏壇に手を合わせてから1日の活動を始めていた。食事肉は一切食べず魚、野菜、海藻が主でとくにジャガイモは好物で始終食べていた。そんな母の姿も重ねて見てきたので私自身人生は日常生活のリズムを保ち節制次第で90歳位までは誰でも生きられるのではないかという思い込みが自然に定着していた。

前置きが長くなったがこれから表題に入ります。今の70歳はまだまだ若くこれから何でも出来るのではないかと考えている。

元気といっても70歳から新しい事を始めることは今まで以上に体力、精神力が必要になるので時間が出来たら考えるとして、取り合えず今まで続けてきたゴルフに集中し目標を定める事

にした。先ず5年以内に毎週1~2回友達とプレーしている近所のパー3の18ホールでパープレイを達成する事。これは、最近5オーバーくらいで回る事もあるので、もう少し真剣、丁寧にプレーしたならば可能性はあると思っている。次には本当に夢で終わるかもしれない、エイジシューターです。レギュラーコース(パー72)で自分の年齢と同じかそれ以下のスコアでラウンドする事ですが、これはアマチュアでは至難の業、精神力、肉体の衰えと仲良く同居しながら90歳までに何とか目的を達成したいと思っている。

私が所属している二世ゴルフクラブに80歳を過ぎてでもまだシングルハンディキャップを維持しながらエイジシュトも何回か達成している模範になるプレーヤーが身近にいる。これは幸運な事でトーナメント毎に彼のゴルフに対しての姿勢、ホール攻略方、クラブの選定、スイング等を密かに参考にしながら努力している。

幸い昨今はクラブの新材料の開発が進み、道具、ボールもコンピューターで設計され飛躍的に使い勝手が良くなり、これらの恩恵に授かりながら、肉体の衰えをカバーしてくれている。因みに私のドライバーディスタンスは昨年より伸びてきているのでこれらの新兵器に一類の望みをかけている。そして最も重要な事(私にとって)はカナダの長い冬を如何にして体調を維持しながらゴルフシーズン幕開けにベストコンディションで望めるかがキーポイントになる。それとともに毎年衰える精神、肉体を最小限に食い止めようと、毎日モール歩き、その後は室内練習場でみっちり1時間汗を流し、1月末には気の合った友達とドミニカに飛び、1週間1日に練習を兼ねたゴルフを2ラウンド周り、トロントに帰って、インドアの練習に戻り4月初めまで続ける。そして夏のゴルフシーズン中に70~80回のラウンドを続けてエイジシューターに挑戦していく計画ですが最近プレーする回数を増やしても内容を密にしないと技術の進歩はない事がわかった。食事でも大事なことの1つで、元気に長生きした母の食事を参考にし料理をしてくれる家内を初め周りのサポートも絶対条件で、これが無ければこの夢は夢のまた夢に終わってしまうだろう。

さて今 NJCA は JCCC が新しいビルディングに移ってから運営方針を大きく転換、それに伴って NJCA との間で出てきた諸問題の解決策で難しい判断を迫られていますがこれも時代の流れ、逆らうことなく、役員、理事、新移住者が結束し、英知を出し合い協力し子弟の将来を見据えて最善の努力をして日系社会との調和を考え組織を挙げて建設的な話し合いを続けていけば自ずと道は開けてくると思います。人生も30~40歳代の生き方が退職後の生活に反映してくるように NJCA も創立30年これからの10年間は正念場になりこれをうまく乗り切った時、その結果は NJCA がこの先10年、20年の活動方針が日系社会に受け入れられ発展していく事になると思います。



トロント歌声喫茶の会
“余聞” タンゴへのいざない

掛川彰信



作曲家そして、舞台音楽家でもある宮川彬良(『恋のバカンス』等 “ザ・ピーナッツ” の歌を数多く作曲した宮川泰の長男)がいきも、人が生きていく為に必要な物は、空気、水、そして“音楽”と言っていたように、オズミさんこと、坂本スミコが歌う“夢であいましょう”を聞きながら毎週、中村八大、永六輔コンビの歌をこよなく楽しみに、また同じ頃花王石鹼提供 “シャボン玉・ホリデー”の“エンディングテーマ”として流れていたホギー・カーマイケルの名曲「スターダスト」を演奏していたブラジルのギター兄弟『ロス・インディ

オス・タバハラス』のファンだった私は、例会で暫くの間、“音楽裏話”を披露していましたが、そのなかに“タンゴへのいざない”を取り上げた事がありました。それまでも少なからず興味がありましたが、私がこの南米生まれの音楽に傾倒していったのはある旧友との出会でした。中学の時同級生だった彼は東京へ進学しましたが、暫く振りて会った時タンゴへの情熱をライブハウスで熱っぽく語り、大学の同好会でバンドネオンを担当しているとの事でした。そのとき聴いたコンチネンタル タンゴの名曲の一つ『ヴィオレッタに捧げし歌』(1853年に初演された椿姫で歌われた曲を基にオーストラリアの作曲家が1936年に作り直した)がその原点になりました。コンチネンタル・タンゴは、タンゴのリズムを基調にヨーロッパの音楽家達が、作り出したものです。ドイツで生まれた『夜のタンゴ』『バラのタンゴ』『小雨降る路』『藍空』『奥様お手をどうぞ』そしてデンマークの作曲家ヤコブ・ガーテの『ジェラシー』はアルゼンチン・タンゴの名曲『ラ・クンパルシータ』とともに世界で最も愛されている曲です。その上、アルゼンチン・タンゴよりも柔らかく華麗なリズムと、弦楽器を駆使したムードが受けてむしろ BGM として親しまれています。

カーニバルの行列という意味の『ラ・クンパルシータ』は全く素人のウルグアイ工科大学の学生の作品であることもさることながら、90年以上過ぎてなお50種以上の選択がある最高傑作の一つです。そして例えるなら、ベートーベン第五交響曲、4分の5拍子のリズムが特徴的なデイヴ・ブルーベック・カルテットの「テイク・ファイブ」、またとても極端な例になりますが、北原ミレイの『石狩挽歌』のようにその出だしの部分を聴いただけで判る知名度のある名曲です。

ところで、「どんなものを食べているか言ってみませ。君がどんな人間か言い当ててみせよう」こう言ったのは19世紀フランスの美食家ブリア・サラバンでしたが、もし「どんな音楽を聴いているのか、言ってみませ。君がどんな人間か言い当てるとしたら」果たして、これはギリシャ神話の太陽の神であり、音楽の神でもある“アポロン”にも聞いてみましょうか。

タンゴは一般的にはアルゼンチンの音楽といわれていますが、厳密には、ブエノスアイレスの音楽です。そのルーツはキューバのハバナで流行していた、ダンス音楽“コントラダンサ”と“ハバネラ”を取り入れ、所謂タンゴといわれる音楽を作ったのはラテンアメリカの国の多くがそうであるように、ブエノスアイレスに多く移り住んだ移民者達でした。

そして、19世紀にドイツのハイリッヒ・バンドによって発明され、その複雑なキイの配列と蛇腹の押し引きで音が変わる特異性から“悪魔の楽器”とも呼ばれ彼の名前を冠したバンドネオンがタンゴ演奏に加わり“オルケスタ・ティピカ”と呼ばれるタンゴの典型的な楽団が生まれ最初の興隆期を迎えます。この時期には今でも人気のある『カミニート』『ジーラ・ジーラ』『アデオス・ムチャーチョス』等の名曲が生まれました。そして、その後1940年になると、アルゼンチン大統領のペロンと彼の伝説的な妻エビータによる支持を得てタンゴを国の象徴とすることで2度目の興隆期を迎えます。しかしながら、1955年のペロン失脚によりそれまでのタンゴの世界が淘汰された形

で「踊る」タンゴから「聴く」タンゴ指向へと変わって行きました。

この時期に注目を集めるのが“アストル・ピアソラ”で、彼の作品は世界的に有名なクラシックの演奏家“ヨーヨー・マ”“ピエール・ランパル”等に依って演奏されています。そしてタンゴは、更に国際化を深めていくと思います。又それ以来『タンゴ・アルゼンチーノ』の様な、タンゴの“ダンスショー”に代表される「観る」タンゴも楽しみの一つになりました。

日本のタンゴ界でも、1937年に声楽家の藤原義江がアルゼンチンで、タンゴを録音し、1940年に作曲家古賀政男も『東京ラブソデー』等をタンゴのレコードとして出しています。そして往年のファンにはとても懐かしい早川真平率いる“オルケスタ・ティピカ東京”や歌手藤沢嵐子等が日本のタンゴ黄金時代の荷い手でした。

余談ながら、去年の7月9日(アルゼンチンの独立記念日)に当地からトロントを訪れた“Orquesta Tipica Imperial”の演奏を聴きました。小編成の楽団でしたが、バンドネオンも3人編成で“アルフレッド・ハウゼ”を聴いて以来久しぶりの生演奏を楽しみました。ついでながら機会があれば『イル・ポスティーノ』(イタリア映画)のサウンドトラックの中の“タンゴの神様”と言われる歌手“カルロス・ガルデル”の歌もさることながら、メイン・テーマも聴いてみて下さい。ピアノの音に支えられながらも、バンドネオン本来の哀愁に満ちた音色の良さが判るような気がします。

タンゴが生まれて140年近くなりますが、日本でも嘗て自らのバンドであった“ザ・タンギスト”を率いて若手リーダーとして、タンゴ界を牽引してきた小松亮太(バンドネオン奏者)のように他のアーティストとのコラボレーションも多く試みる新しい世代が、この南米生まれの音楽の魅力を確実に再発見している様です。

そして、この記事を書いているとき、浮かび上がって来る一つのエピソードがありました。近代オリンピックの閉会式の形式は、開会式のそれとは異なり各国選手達は全く自由にそれぞれ思い思いに会場に現れます。私の記憶が正しければ、これはオーストラリアの選手の提案だったと思いますが、この時だけは共通のスポーツを通じ、人種、肌の色、宗教等を忘れて世界平和を祈ろうと言う願いが実現した結果です。

音楽にも国境はありません。しかしながら、世界の火薬庫と言われる複雑な情勢の中東をはじめとして、益々激しくなる各地の戦争や飽きることなく繰り返される内戦、紛争、殺戮、そして世界を震撼させる多発テロ行為などを思う時、言葉の領域を凌駕する憤りと絶望感を感じます。そんな時、昨年トロントを訪れた作家で、世界的な経済学者、国連のスペシャル・アドバイザーでもあるJeffrey Sachsが語った、“I am worried about our capacity to kill each other faster than we can understand each other.”の思いが心の中を過ぎります。

最後にせめて平和の願いを歌に託し、ニューオーリンズ・ジャズが生んだ不世物の“サッチモ”ことルイ・アームストロングが、心に滲みような独特の声で、しみじみと歌う『What a wonderful world』を思い出しながら筆を置きます。

OPEN:10a.m.TO 7p.m.(SUN:11a.m.TO 6p.m.)CLOSED:TUESDAY
730 QUEEN ST. W. TORONTO M6J 1E8 TEL. 416.703.4550 FAX. 416.703.8593

JAPANESE FOODS & GIFT SHOP
SANKO
http://www.toronto-sanko.com

日本食料品
みそ・しょうゆ各種
新鮮野菜
冷凍魚各種
スキヤキ肉
数の子厚片
いくら・とびこ
塩鮭切身
冷凍えだ豆
和菓子各種
オーガニック緑茶

さくら米
炊飯器
和食うつ多様
新刊雑誌・古本
MAXELL/バドリー
ペンテルペン
テレホンカード
ビデオレンタル
元気の源 元気ドリンク
他たくさん!!

書籍は航空便で直輸入
定期購読受付中!

おにぎり
お弁当(週末)あります

活気のある人求む
土日働ける方募集中!

日本送りのギフトあります

僕の少年時代
春から秋の遊びいろいろ

長石芳尚



春になると、山に出かけて木の実や花、草の若芽等、何でも口に入れて味わうのが僕たちの春の過ごし方。水溜りのかえるの卵をかき混ぜたり、おたまじゃくしが出来れば捕まえて見たりしたがこれは余り可愛くなく、ふんが汚いので大抵手足が出てくるまで飼いつける事はなかった。カエルにも色々あるはずだが多奈川にいたのは所謂「イボ蛙」で何の魅力もなく、僕は1度もやらなかったが、友達によく誰かの家の塀に磔の刑にして遊んでいたようだ。唯、草から伸びた穂の先端を残して残りをしごき取ったものを

この「イボ蛙」の目の前でチラチラうごかすとパクリと飛びついてくるのはほんのしばらくといえども時間つぶしになることもあった。とはいえこの蛙には何の魅力もなかったので僕たちの仲間が遊びの対象の序列に入れたことはない。

春を無事に過せば梅雨がやってくる。毎日雨が続きと外で遊べないのでうっとおしいもので止んだと見ればすぐ外に飛び出す。僕が特に好きだったのは長梅雨の後の晴れ間に上の池に行く事だ。その時、池は岸边まで満々と日頃になく透き通った冷たい水をたたえ周囲は森閑として神秘的ともいえる様子を呈して生命を底に擁している気配は全くない。

そして、いよいよ夏の到来だ。平生から遊んで暮らしているから、夏休みを待ち焦がれた事は全くなかったと思う。反って宿題があったり、もてあます時間がむやみに長くなって迷惑した感じだ。とはいっても休みに入って数日立つともう完全に夏モードに切り替わって、日により代わるが大概は自宅のすぐ上手、山のふもとにある2つの池のうちの汚く大きな池で昼間を過ごす事が多かった。以前書いたと思うがこの池は家の山手にある2つの池ノ中、下手にあって大きくはあるが何時も濁っている。夏の夕刻になると山の斜面が池の向こう岸に落ちるあたりの深い茂みで食用かえるがガオウガオウと啼く。池のこちら側の岸からおおよそ4、5メートルの所に池の水を抜く時の詮を示す2本の丸太が立っている。

実はこの池で僕の家並びの最東端に住む友人、滝川君の中学に通う2番目の中学生だったお兄さんに泳ぎを仕込まれたのだが、その経緯はこうだ。

泳ぎを始めたのは泉大津から多奈川に引っ越して、夏が来るや否やの事だから何時の事か年齢的なことは全く判らない。兎も角まず頭を水に完全につけて全身の力を抜けば浮く事になっておりこれはすぐに出来たからこの杭まで頭を水につけて犬掻きでたどり着くのは何のことはなかったのだが、頭を水面から出して泳ぐ事はなかなか出来なかったように覚えている。ある日の事この兄さんが肩に掴まれという。岸边で肩に捕まるや彼は池の中心に向かって泳ぎだしたのだ。例の杭を通過しドンドン池の中心に向かって泳いで行く。僕は両手で彼の肩をしっかりと掴んでいて体は水平になっていてある程度自分の浮力で浮かんでいたのだからまさか彼が僕の手を振り切るとは思ってもいなかった。一瞬びっくりしたが必死で両手で犬掻きをして足をバタバタさせたら何のことはない頭を水から出したままで泳げたのだ。

しかし、その後長らく犬掻きに固執して平泳ぎや横泳ぎまでやクロールに手が届くようになるには多分2、3年かかった様に思う。何を隠そう今でもクロールは苦手であるし、バタフライには全く手が出ない。写真は多奈川時代のものでなく神戸に移ってからのもので妹と弟が写っている。多奈川では白い所謂六尺禪(フンドシ)を締めていたが残念ながら写真は残っていない。これは海で泳ぐ時、長く流すと、フカから身を守ると聞いていた。今思い起こしても不思議に思うが、小学校の体操の時間に海水浴の授業がが全くなかったこともあって、正式に泳ぎ方、遠泳法等を学ぶ機会は僕の多奈川時代には皆無であった。

所でこの池は僕たちが泳ぎ、海釣りの餌となる川えびを採り、ギンヤマの雌を探し、もろこやメダカを捕まえ、フナを捕まえようと何回も試み、多奈川坊っ子達に池の西側の斜面から石をドンドン投げ込まれて時として追い立てられる等々僕達の生活とは極めて係わりの深い存在だった。

秋になる頃、というより池や海で泳ぐには寒すぎる頃になると山へ出かけて、木の実や花を試食したり家から坂を下った所を流れる小川へどんこや川えび、うなぎ等を探しに行くこともあったが、前回書いた5寸釘を地面に投げつけて遊ぶ陣取り、竹とんぼつくり、日光写真、めんこ取り、山から笹を取ってきた水鉄砲や紙鉄砲つくりと作ってからの合戦で時間を過ごす事が多かったと思う。めんこといえはろうそくの蠟をしみこませた後、手で慎重に揉みほぐして机に打ち付けたときにパンと跳ね上がらずふわりと着地し相手のめんこに風が強く届いて裏返しにするように工夫に工夫を重ねることに暇さえあれば頭を絞りに絞り、試みに余念がなかった。当時、めんこには英単語を書いたものが多く、今でも何故かホスピタルの単語が頭に残る。亦、日光写真なるものが何たる物かに触れると、所謂、今は見かけなくなったが、一昔前に青写真と称してトレーシング紙に書いた製図のコピーを取るときにご厄介になったアンモニアで定着した青く変色した紙にミッキーマウス等のフィルムを重ねて太陽光に当てると光に当たった所が白くなってフィルムの像の反転した像が紙に映し出されるというもので1時夢中になって何時間も過ぎた事があった。残念ながらこの像は時間とともに元の青に戻るから元の木阿弥になるのであるが強烈な色の変化に魅せられたのだと思う。

ここで学校の行き帰りに何をして遊んだか思い出したので書くと、国道沿いの溝や田舎道を迂回して通る時は田んぼのどじょう採り、蛇を見つければ尻尾を掴んでブンブン振り回して遠くへ投げたり、地面に打ち付けたり、麦をしごき取って殻をもみ取り口に入れて噛んでチュウインガムを作る等他愛もない事で家に着くまでその日その日臨機応変に退屈しのぎを工夫したに過ぎない。

もう少しで忘れる所だったが、何時の頃からかはっきり覚えていないが、居間に置いてあった縦型で真ん中に四角いセルロイドのダイヤルのついたラジオから夕食前の頃聞こえる「新諸国物語」に夢中になって、遊びに夢中になって忘れる事があったとき以外はラジオに耳をつけて聞き入ったもので毎回頭の中に色々思い浮かべてワクワクする1時を過ぎた。このラジオ、後で知ったスーパーヘテロダイン方式のものだったのか判らないが、スイッチを入れると中の真空管の灯がポオーッと灯り埃臭いとも何とも言えないにおいがしてくる。今でもその匂いを思い出して感じる事が出来る、懐かしいものだ。



夏が過ぎて秋が来る頃には赤とんぼがわんさか現れ、家の前には何時も多分100匹前後が群れをなして地面の少し上から僕の背丈の倍ほどの高さまでびっしりと羽ばたくようになる。

僕の大好きなギンヤマが獲れば赤とんぼも捕まえて餌にしてギンヤマに喜んで貰おうとしたもので、それ以外の目的で赤とんぼを捕まえる事は無かったと思う。暑さも和らいでくるから自ずとその日の気温に合わせてこれまで書いてきたいろんな遊び方を随時選んで時間つぶしをしていたのだろう。今回はこの辺で・・・

みついし商店・サンダウンマーケット

日本送り用ギフト 日本食品
承っております

ビデオレンタル・雑貨

● スカーポロ店

日～水 10:00～18:00
木・金 10:00～19:00
土 9:00～18:00

4385 Sheppard Avenue E., Pearl Plaza内, Unit 15,
Scarborough, ON. M1S 1T9 (Brimley & Sheppard)
☎(416)496-9083/FAX(416)496-9084

サンダース
ベリー
自然化粧品
取扱店

● エトビコー店

日～水 10:00～18:00
木・金 10:00～19:00
土 9:00～18:00

826 Browns Line, Etobicoke Ontario M8W 3W9
(Evans Ave. & Browns Line)
☎(416)251-7900 / (416)259-8260

◆秘密兵器？◆



日本にはスイッチを入れたり切ったり出来る人達が多い。東京駅の新幹線の駅のホームの端に等身大の人形が立っていた、のは実はこれもスイッチを切った人間だった。ホームの端を向いて直立不動、見事に動かない。それをじっと見ていた僕も今思うに無意識にスイッチを切っていたかも。新幹線電車が到着、ホームに停車した途端、その人のスイッチが入って車内へ。ロボットのように座席をひとつひとつ全く

同じ動作、手順、かつ猛烈なスピードで清掃して行く。それを窓の外から座席1列1列追いかけて僕は観察した。本当に人間なのか、それとも人口減少に直面した日本の秘密兵器？

◆死にたくなったら・・・◆



上越新幹線のホームに上がるとそこは雪国ではなく通勤ラッシュだった。

今や上越・東北・長野新幹線は旅をするものではなく通勤するものなのだった。

巨大長大な新幹線電車が着く度に「トロ」の田舎から「真っ黒クロスケ」が開いたドアからドサッと吐き出され、ホームを真っ黒に染め、それが階段に渦のように吸い込まれて消えて行く・・・かな。ホームの真ん中の変なところにも「真っ黒クロスケ」は吸い込まれて行く。ガラス張りの小さなお店。中はモヤモヤしていて良く見えない。良く見るとドアに「喫煙室」と書いてあった。

うわー、凄い。ガス室。世の中が嫌になって死にたくなったらここに入ればよい。すぐに窒息死できる・・・。

◆正義の味方◆



速達タイプ(と時刻表に書いてあった。余り駅に止まらない、という意味らしい。郵便になった気持ち)上越新幹線「とき」は2階建てだった。新幹線の2階建てに乗るのは初めてだ。

指定席は2階の席。下の階にも行ってみる。ホームの表面が目の高さ、次の電車を待つ行列の女性の大根足が目の前に並んでいた。

走り出すと2階では架線がいやに近くに見える。また階下へ。地面に近くスピード感は最高。

階段を昇り降りしてはしゃいでいたら目の前にかわいいきゃしゃな女の子が車内販売の大きなトレイを胸の前に首から下げ、肩には飲み物の缶が一杯入ったバッグをかけてふらふらと階段を昇って来た。

そうか、2階建てでは車内販売ワゴンは使えない。怒りが湧いた。こんな女の子にこんなに重い物を持たせ、揺れる車内の狭い階段を昇り降りさせるなど、JRは鬼だブッシュだ。東京から新潟までたった2時間半、トイレだって我慢できる時間だ。乗客には飲み物、食べ物くらい我慢させろ。

◆やった！◆



車内販売も車掌も車内からデッキに出るドアのところでは必ず向き直ってお辞儀をする。それが気になっていちいち見ていたのは僕くらいだっただろう。

乗客は皆、進行方向に向かって座っている。その方向のドアを出る時は乗客に向かってお辞儀をすることになる。無意味なお辞儀とは思ったが、まあ、それは良いでしょう。

じゃ、反対側のデッキに出る時は？乗客の背中に向かってお辞儀をすることになる。それともお辞儀をしないか。それが気になって仕方なかった。

やっと検札が終わった車掌が戻って来た。僕の脇を通り過ぎる。僕は振り返り座席の間からそっと観察した。お辞儀をした！

◆無事にトンネルを抜けたら◆



2階建て新幹線「とき」はうなりを上げて上州の山間をひたすら北へ走り、ついに上越国境の大清水トンネルに突入した。

日本の大学卒業後、小松製作所系列の会社で(嫌々)働いた。技術部設計第一課と言う、工学部卒業なら誰もがよだれをたらしそうな部署に配置された。なのに残業もせずの良い仕事をし(!)結局辞めた。

残業土日出勤をした仕事がある。何を隠そう、この大清水トンネルを掘る機械(の補助をする機械、はっ)の設計をした。営業部が無理な仕様と無理な納入日程で仕事を取り、僕の机の上にボンと置いていった。

何はともあれ現地調査、と大学時代良く登った懐かしい谷川連邦の山間に行った。こんな若造に機械など作れるものか、という現場の人達の疑惑と軽蔑の視線がびびり顔に当たった。

調査と現地会議終了後、会社へ戻り残業中の課長に報告すべきところ、僕は山の駅前の公衆温泉にのんびりとつかり、ゆっくりと山菜定食を食べ、独身寮へゆうゆうと帰った。

新しい機構を考え出して設計したその機械が稼動する前に、僕は会社を辞めカナダへ来た。この新幹線電車が無事に越後へ抜けたら、あの機械はちゃんと働いたことになる。

◆クリスピー・クリーム◆



上越新幹線は無事にトンネルを抜け、田植えの終わった越後平野の緑の水田を疾走する。もうすぐ終点新潟、世話しない日本人達はもうそわそわ降りる支度を始めた。

若い女の子が大きなピザの箱を6つも抱えて通路をフラフラ歩いて行く。

通勤新幹線は今やピザの配達列車にもなったか・・・。

うん、待てよ、良く見ると箱には「クリスピー・クリーム」と書いてある。

昨日新宿南口を通った時、ある店の前は長蛇も長蛇、青大将だった。

「クリスピー・クリーム」

あれでは買うまでに何時間もかかるだろうに、日本民族は一旦話題になると一億総「右へならへ」。

あの女の子もあの列にいたか。しかも6箱も！まあ、本人が幸せで満足なら、よしとするか

◆雪の中の貴婦人 C57 ◆



養父の父親が危篤、ということで家族で急いで秋田県は羽後本庄の病院へ向かったことがあった。真冬の3月のこと。

上越線の列車を降りて、長岡駅の一番線ホームで青森行き急行「日本海」を待った。

列車が来る、というアナウンスがあったが、雪国長岡駅のホームははらはらと降り続く雪の中、静寂のままだった。

突然雪にまみれた真っ黒な蒸気機関車 C 57 (と後で分かった) が雪煙を上げてゴーゴーとホームに走り込んできた。豪快で強烈な印象だった。

あれがはるばる大阪から走って来、さらに我々家族を雪の中、秋田まで運んだことを考えると、通称貴婦人と呼ばれた華麗な姿の C 57 蒸気機関車の記憶には今でも特別な感情がわいて来る。

養父の父親に会ったのは後にも先にもその時だけ。病院のベッドに横たわって僕を見つめた。

◆♪汽笛一声オルゴール◆



今回新潟駅で待っていた青森行き特急「いなほ」は485系交直両用特急電車6両編成。結構古い車両で、車内改装もろくにしていない。トイレも和式のみだった。外国人グループが乗っていたがどうするつもりか。

新潟駅を後にし、しばらくしてから驚いた。

「♪汽笛一声新橋を… 月を旅路の友として♪、チン!」の懐かしい車内放送オルゴールが流れるではないか!

昔、急行「日本海」の汽笛一声オルゴールに続く車内放送は観光バスに負けない観光案内だった。沖に見える島の案内には水平線に目をこらし、どんな人達が住むのだろうと心がはずんだ。山の案内にはあの山に登ることがあるだろうか、と頂上をあおいだ。

優等列車に乗ることなど減多になかった当時、この汽笛一声オルゴールは子供心に贅沢の象徴として残った。

JRになった現在、車内放送オルゴールは気取ってクラシック音楽かなんかになってしまった。観光案内などは「もう知っているでしょう」とやっってはくれない。お陰で僕のこの汽笛一声オルゴールの尊い思い出はいつまでもけがされることなく残り続けている。

◆いつのまにか窓際◆



子供の頃、夏休みはよく養父の実家、仁賀保町へ行った。

超長距離急行「日本海」はいつも満員だった。長岡駅から乗ると通路に立つことになる。母と小さな子供3人の家族。これが強力な武器になった。

子供が立っていればそのままでは済まない。誰かが少し詰めてくれて座席の端っこにちょこんと座る。それがいつのまにか窓際になり、風と煙塵に吹かれて海を眺めていたっけ。そしてお昼はおにぎりだった。

この特急「いなほ」は空席が多い。JRバスで買った窓際の指定席に座り、開かない窓を通して日本海を眺め、新潟駅で買った駅弁を食べお茶を飲んでいる。それでも僕は昔と全く同じ線路の上を秋田へ向かっている。

◆普通に走って下さい◆



特急「いなほ」は羽越本線を北上して行く。坂町、あつみ温泉、鼠ヶ関、など懐かしい名前の駅を通過して行く。夏休みを海で過ごす為に汽車に乗っていた子供は、それら駅の名前の響きに心を躍らせたものだ。

いつの頃からか車掌が謝り始めた。

「この電車はX駅を2分遅れて発車しました」

「この電車はただいま2分遅れて運行しています。大変ご迷惑をおかけしております」

この列車の全走行時間は4時間近い。それが2分遅れたって誰が気がつくものか。全然ご迷惑ではない。

東海道新幹線は東京・大阪間を鈍行超特急「ひかり」が3時間余りで走っている。景色を楽しむ暇がない程早い。なのに、日本人はさらに高い料金を払って「ひかり」より30分早く着く「のぞみ」に先を争って乗る。

東京から大阪に30分早く着いたって何の得があるのだろう、と思うのは、僕はもうカナダ人なのだろう。JRパスではいづれにしる「のぞみ」に乗れない、あつはつは。

さてよ、沢山の人が死んだ宝塚線の脱線事故は運転手が2分の遅れを回復しようとした為ではなかったっけ。

運転手さん、僕、2分の遅れ全然大丈夫です、このまま2分遅れ、いやもっと遅れたって気にしません、普通に走って下さい、お願いします。

◆仁賀保◆



昼下りの仁賀保に無事に着いた。降りた乗客は僕ひとり。電車よ、止まってくれてありがとう。

電車が行ってしまうとそこは時間が止まった静寂の世界。雑草が揺れるホームを改札口へ。

切符を取り上げようと待ち構えていた駅員にJRパスを見せてがっかりさせる。

驚いたことに、この小さい田舎の駅にJTBの旅行社どうどん・そばカウンターがあった。

このカウンターはお年寄りの親睦の為にあることはすぐに分かった。カウンターを囲んだお年寄りの会話に懐かしい「勝」おばあちゃんの方が聞こえた。いつも怒られてばかりいたのだけれど・・・

さっきがっかりさせた「駅員」はJTBの社員だった。

◆宿無しに◆



この駅には荷物を入れるロッカーがない。まあ、こんな町で荷物を置いて町へ観光、なんていう人はいないよな。

荷物をゴロゴロ引きながら駅前へ。ここ始発のローカルバスがエンジンを止めて居眠りをしている。

駅前に小さな旅館が向かい合って建っていた。まずは宿を決め荷物を置いて、ど。

一軒目。休業中。二件目。満員!? えーっ! 漁港の浚渫作業を請け負った名古屋の業者が1ヶ月借り切ったのだと。

こんな町、旅館など閑古鳥が鳴いているだろうと思っていたのに、あっという間に宿無しになってしまった。

何はともあれまずは目的の墓参りを。

閑散とした午後の海辺の町を荷物をゴロゴロと音を響かせながら「若者」が歩いて行くと皆「何者じゃ」と振り返る。おばあさんなどは背中を丸めて立ち止まり、僕が近づき、前を通り、通り過ぎるまで目を細めてじっと眺めている。

「こんにちは」

次号につづく



浮舟の会 近況

上中富美子



トロントで書道の普及を目的として発足した”浮舟の会”が NJCA の傘下に加わって以来九年が経ちました。 加盟団体として毎年お正月会では、書初めコーナーを楽しく担当させて頂いています。

二年に一度開いている書作展も、回を重ねる毎に作品の内容とレベルが高まっているとは、毎回みて下さる方々から頂いた嬉しいお言葉です。 この会が生まれてまだそう長くはありませんが、故二階堂李江先生主宰の”李苑”時代からの受号者に加え(先生の遺志で私が会のメンバーを引き継ぎました)、更に十名の受号者も出て、今では併せて十七名の会員が雅号をもつという、小さいながら充実した書道グループとして成長を続けています。



2008年度には、九月に二名の方が受号され(寺下恵以子『蘭舟』、武田純子『玉舟』)、去る一月十七日に催された会員の書初め親睦会に於いて、更に三名の方(写真、向かって左、二人目から、藤井久子『翠舟』さん、溝上ミカエ『茜舟』さん、松葉多喜枝『白舟』さん)が受号されました。

一年間に五人もの受号者が出たことは、初めてのことで、過去数年間、師弟共に研鑽を積んできた結果として、実りの時期を迎えているように思われます。

今年は二年毎に催す書作展の年に当たり、来る四月二十五、二十六両日(正午—五時)、モミジ・ヘルスケア・センターで創立十周年記念の書展を開くことになりました。 今回は会員がそれぞれ与えられたテーマのもとに、漢字作品と仮名作品、すなわち一人二点づつを発表することになっており、去年の九月以来、懸命に作品作りに励んでいます。 初日には、一時から開会式が行われます。皆様にも、是非とも万障お繰り合わせの上、お越し頂ければ幸いです。 茶菓など用意して会員一同お待ち致しております。

以下は、過日の授号式で、主宰者の私、李舟が会員に話したこの一部で、僭越ですが皆様にも披露させて頂き、道に精進することの意味を例えを用いて話したつもりです。

私が生涯の指針としている言葉の一つに『一生稽古』という言葉があります。「稽古」という言葉のもともとの意味は「古いことを考える」ということですが、転じて「物事を学習する、練習する」という意に使われるようになりました。そして「一生稽古」とは、稽古とは一生をかけてするものだということ、すなわち、「道」と呼ばれるものは、学んでも学んでも尽きることはない奥深いものであるということに繋がります。

これはもう三十年ほど前になりましたか、どこかで読んだ話です。ある人が蟬の脱皮に興味を持って、観察することにしました。地上に出てきたばかりの蟬の幼虫が木に登っていくのをじっと観ていました。幹の半ばほどに登ったあたりで、背中が割れて脱皮が始まりました。恐ろしくゆっくりと少しずつ殻からぬけてゆきます。そのうちに夜になってしまい、夜が更けると共に疲れもでて眠くなってきました。そのうち眠くてたまらなくなりましたが、よく観ると羽の部分があと五ミリほどを残して脱皮が終わりそうなのです。とうとう我慢出来なくなって、そっと羽をひっぱって、最後の5ミリを手伝ってやりました。これで蟬の脱皮は終わったものと安心して寝につきました。ところが翌朝起きてみると、蟬は羽先の5ミリがちじれたままで死んでいました。この蟬の脱皮は、自然界が恵与した偉大なる自然力によるものではなかったの、ちじれた羽はのびることもなく、まして飛ぶことも、鳴くことも無くその生涯を閉じてしまったのでした。

蟬は十年以上の長い間を土中で生き、地上に出てからはほんの数日しか生きないと教わりましたが、その短い尊い時期を鳴くこともないままにこの蟬は終わらされたのでした。何事によらず稽古事とは時間のかかるものです。ましてや書道は大変地味な勉強で、他人の鑑賞にたえられる書、あるいは自分なりに楽しんで書けるようになるまでには、非常な根気と長期の精進を要します。忍耐強く、たゆまず稽古をそれこそ一生を掛けて続けねばなりません。せっかく長い間、稽古してきたのに、自らの理由にして、他からの圧力によるものにして、終わりまで続けることがなければ、この蟬の運命と同じ結末と言わなければなりません。筆硯の生涯を全うしてほしいと切に願うものです。



上記の受号者、溝上さんと松葉さんは、それぞれ今年、卒寿、傘寿を、迎えられるが、今尚稽古に励んでおられます。後に続く私共のよき道しるべとして、これからも益々精進して下さることを、切に望みます。お母様(溝上さん)を教室に送り迎えしているうちに、何とはなしに書の道へお入りになった藤井さんも、今では大変熱心に古筆の勉強に取り組んでおられます。何と素晴らしい親孝行の姿ではございませんか。

デリバリーご注文うけたまわります

- ❖ 寿司、刺し身、自家製スモークサーモン、定食類、麺類、丼物、種類豊富な一品料理を御用意致しております。
- ❖ 御家族連れ用畳部屋有り。各種テイクアウト致します。

個人〜団体様用パーティールームございます。

📞 **ランチタイム** 火〜金 11:30〜2:30
📞 **ディナー** 火〜木・日 5:00〜10:00
金・土 5:00〜10:30
月曜定休日

📍 当店ホームページ mikadorestaurant.ca を御覧下さい

LICENSED
114 LAIRD DR. LEASIDE
駐車場完備
TEL/FAX: 416-421-6016

寿司・割烹

みかど
オーナーシェフ 梶田佳一
1978年創業

LEXUS **新装開店** **TOYOTA**

ドンパレーノースのトヨタ部門が新築移転して営業開始!
オールカナダ最大のショールーム(40台展示)、サービス工場(44ペイ、ドライブスルーサービス)、建坪104000sqft.
(本社機能及びレクサス部門は現社屋のままで年末より拡張工事開始予定。)

— Don Valley North —

Canada's #1 TOYOTA & LEXUS Dealer Since 1973 **LEXUS TOYOTA** 横浜トヨタベットのグループ 海外拠点・創立35周年

- DON VALLEY NORTH TOYOTA** www.dvntoyota.com
3300 Steeles Ave. East, Markham (905)475-0722 友野
- DON VALLEY NORTH LEXUS** www.dvnlexus.com
3120 Steeles Ave. East, Markham (905)479-8555 横山
- MARKVILLE TOYOTA** www.markvilletoyota.com
5362 Hwy #7, Markham (905)294-8100 田中
- LEXUS OF RICHMOND HILL** www.lexusrh.com
11552 Yonge Street, Richmond Hill (905)883-8812 坂本
- TOYOTA COLLISION REPAIR CENTRE**
391 John Street, Thornhill (905)886-0434 山口

2008年トロント紅白歌合戦

運営担当
中山あつ子



8名の新人を迎えての2008年度トロント紅白も12月13日に開催され、満席のうちに終えることができました。出演者、裏方一同総計100名にのぼるボランティア・スタッフでしたが、6ヶ月以上の準備期間を越えての本番は1000名の底力を見る思いが致しました。開催にあたり、ご協力いただいた広告主の皆様にも厚くお礼を申し上げます。

尚、純益金から日系文化会館に3000ドル、新移住者協会に1000ドルの寄付を致しました。

バーチャルからリアルへ

丸木英朗



数年間メル友として交信していた阪神タイガースの宮崎オーナーに招かれ、8月末に甲子園球場で伝統の阪神巨人戦を観てきました。同氏が日経の交遊抄に書かれたバーチャル

交友が現実となり、リアルの交友になりました。

【写真】 右から トロント猛虎会マックス会長、阪神タイガース宮崎オーナー、僕、トロント・ブルージェイズ長谷川

それから1ヶ月経ち、宮崎さんと三宅スカウトがトロントに来られ、10月8日にトロント猛虎会に出席してくれました。思いもかけぬ来賓の臨席に、会員一同大歓迎したのは言うまでもありません。僕達はリーグ優勝祝賀会を予定していたのですが、13ゲーム引き離していた8月末から連敗に次ぐ連敗で巨人に追い上げられ、遺憾ながら当日の優勝見込みがなくなり、会場のバナーを阪神タイガース歓迎会と書き換えました。その上、皮肉にもお二人が日本に帰られた翌日に巨人優勝が決まり、阪神ファンには悪夢のようなシーズンでし

た。それでも、球団首脳がトロントまで来てくれたのだから、猛虎会にとっては画期的な行事ではありました。なにしろ、猛虎会は日本も含め世界に多数ありますが、オーナーじきじきに参加されたのはトロントが初めてだそうです。球団の親会社である阪神コンテンツリンク会長の宮崎さんは、同社ロサンゼルス事務所での仕事を終えニューヨークにある提携先のビルボード本社を訪問されました。阪神コンテンツリンクは「ビルボードライブハウス」という高級ライブハウスを東京、大阪、福岡で開業し、ジャズファンには馴染みのスポットとか。ちなみにビルボードの他にも、以前は有名なブルーノートのフランチャイズ店を東京と大阪で運営してたそうです。

10月7日、ピアソン空港に出迎え到着ロビーで待っていると、成田空港でレンタルされた携帯から僕の携帯に「今、飛行機を降りて入国手続の列に並んでます」と電話があり、通関まで半時間ぐらいと判りほっとしました。宮崎さんは40年前に阪神電鉄入社当時、日本でボーリングブームが起こり、鉄道事業の沿線企画開発にバッファローに来たことがあるとか、その際にもナイヤガラの滝を見た記憶があるが、あらためて見たいとの事で、ホテルのチェックインには早過ぎるのでナイヤガラに空港から直行しました。三宅スカウトはマサチューセッツ州のクラークカレッジ出身で英語とスペイン語を話されます。さては、キューバ、プエルトリコ、ドミニカはじめメキシコやベネズエラの金の卵スカウト要員と読めました。営業時間を少し過ぎてましたが、熱狂的な阪神ファンのおトモさんが支配人をされている店は、開けて待っていてくれました。話が尽きないばかりか料金までチャラにしてくれました。宮崎オーナーはお礼に支配人の3人のお子さんに子供用の阪神グッズを贈呈されおトモさん大喜び。

ロジャースセント野球場内のルネッサンスホテルにチェックインされた後、トロント猛虎会マックス会長宅でリラックスしてビールで乾杯。ブルージェイズの長谷川さんも合流し、ヨークビルにあるイタリア料理の Bellini's で前夜祭的な打ち解けた雰囲気でお話。マックスが猛虎会発足当時のエピソードを披露、当時のトロント総領事で発起人の肥塚大使とは1ヶ月前に甲子園で面識あり同じ話を日加両国で2度聞かされ、根強い阪神ファンが世界の隅々まで存在することに感動されました。帰国中の大使を野球観戦に誘うのは無理だろうとマックスが申しましたが、折角の機会だから駄目目で僕は肥塚さんにメールしました。頭初は「公務員にウィークデーの観戦は難しいな」とは云われたものの「休暇が取れたから行くよ」と、大使が中学高校の頃に住んでおられた甲子園に来られました。外務省に奉職してから外国勤務ばかりで、甲子園球場で野球の試合を観るのは1972年以来で大満足でした。

旅程も最終行程に入りリラックスされたのか、宮崎さんが「高校在学中、トロントのペンパルから受け取った手紙にチューインガムが同封されてました」と話され、三宅さんが「そのガールフレンドの名前を覚えておれば…」とひやかし和気藹々。その回顧談に僕の思い出が甦り、高校時代に岡惚れしていた学校随一の美人同級生の話をしました。日本に帰られた宮崎さんから「その方は数々の名作映画に出演されている女優さんで、コテコテの阪神ファン」とのメールが翌週届き、僕は絶句!

IKEBATA
NURSERY SCHOOL
TORONTO CANADA

オンタリオ州認可保育園
TEL: 416-510-1441
トロント日系文化会館内
www.ikebatanursery.com

日本語&英語プログラム

- ・18カ月～6歳前後(年齢別クラス)
- ・プログラム時間: 8:30am～4:00pm
(時間外保育: 7:45am～6:00pm)
- ・日本とカナダの経験豊富な幼児教育資格保持者による指導
- ・少人数グループでの日本語・英語レッスン時間あり
- ・毎月の行事やお料理保育、遠足、発表会など豊富なプログラム内容
- ・給食、おやつ込み ・兄弟・姉妹割引あり

ボランティアスタッフ募集中

詳細は当ホームページをご覧ください



新鮮さ味一番!!



オーシャンフードの練り製品をどうぞ!

- ◎かまぼこ ◎てんぷら ◎さつま揚げ ◎シューマイ
- ◎竹輪 ◎はんぺん ◎その他練り製品

日本食品店で求めください

Ocean Food CO. LTD.
SEAFOOD MANUFACTURER

Since 1980

3 TURBINA AVE, TORONTO, ONT. M1V 5G3
www.oceanfood.ca TEL.(416) 285-6487 FAX.(416) 285-4012

三枝師匠 今年もいらっしゃ〜い!

トロント芸能愛好会代表 中山あつ子



日系文化会館小林ホールを笑いの渦に巻き込んだ三枝師匠は、トロントを大いに気に入っていただき、今年もお弟子さんを率いていらっしゃいます。笑いは健康の源です。今年も創作落語の醍醐味を満喫して思いっきり笑って下さい。

チケットは日系文化会館受付にて販売中です。
日時: 5月6日(水) 午後7時開演
一般: フロア席\$45・A席\$43・B席\$33
JCCC 会員:フロア席\$40・A席\$38・B席\$28
JCCC ☎:(416) 441-2345



【もみじヘルスセンターよりのお知らせ】

もみじコミュニティバザー



3月28日(土) 12時より3時半まで。和食器、本、おもちゃ、編み物などの寄付をお願いします。皆さんの台所からの饅頭、カレントウ、寿司、ケーキなども歓迎です。最近の傾向に沿って甘いものは少なくしています。スコーンやチーズビスケット、漬物類を増やしています。表示の為に使用材料を知らせて下さい。

前日に饅頭と寿司作り作業があります。皆さんの経験が必要であるとともに、次の世代にそれを伝えることも必要です。会場準備作業・後片付けの仕事もあります。これらの活動に参加できる人はもみじの事務所に連絡を下さい。(416) 261-6683。作業内容を振り分けます。

皆さん、3月28日(土)にどうかお出掛け下さい。友達に会い、宝物を探し、日本食を楽しみましょう。それではバザーで。

連絡先: Chris Okawara (416) 266-4035 / Lee Mixon (416) 261-6683, Ext. 224

もみじボウラソン



ボーリングボールを押し入れから引っ張り出してもみじの第四回ボウラソンと一緒に楽しみましょう。5月23日(土) 午後2時から。Thornccliffe Bowlerama (45 Overlea Blvd., Toronto)にて。終了後もみじセンターで夕食会がある予定です。

夕食会では新しく改築されたお年寄りセンターのツアーがあります。トロント地域の700人以上のお年寄りが充実したプログラムを楽しんでいます。皆さんが努力して集めた寄付や支持がこれを可能にしました。

ボウラソン登録・寄付申込書は Scott Ohashi、(416)261-6683 に要請して下さい。登録締切は5月1日です。満員になり次第締め切ります。

連絡先: Gayle Cali (905) 796-0725 / Sandy Miike (416) 261-0448 / Scott Ohashi (416) 261-6683

アンケートの依頼

もみじヘルスケアセンターは将来の日系社会の需要・必要に応えるプログラムや計画を準備する為に日系社会のシニア層の要望・意見を聞く調査を行なっています。特に50歳以上の移住者の要望・意見を望んでいます。どうぞご協力をお願いします。

- * インターネットでアンケートに協力できます。「<http://www.momiji.on.ca/>」へ行き「We're listening」へ行って、そのリンクをクリックして下さい。ただしこのアンケートは英語のみです。
- * 日本語アンケート用紙を希望の方は三浦「nobbycosmic@yahoo.co.jp」へ連絡下さい。用紙をe-mailで送付するか郵送します。その場合はもみじヘルスケアセンターへ郵送していただきます。もみじヘルスケアセンターの住所はアンケートの表紙にあります。

3月31日が期限です。どうかよろしくをお願いします。

【編集後記】

編集責任者 森貞一弘

去年の今頃ですね…「どうしてもお正月会で獅子舞をしたい」なんて子供みたいにダダこねていたのは…。実はね、この写真の向かって左側(ちょっと背が低くて痩せている方)の頭をしていたのは僕なんです。お囃子っていうのか、あの単調な太鼓と笛の音が聞こえてくると、魂の底から、自然に何か熱いものがこみ上げてくるから不思議、やっぱり、僕は日本人ですね。今から100年ぐらいたっても、僕達によく似たような人達が、今と同じように、熱く、日本のお正月の雰囲気を楽しめたら素敵だと思います。

原稿の送付先 doit4joy@hotmail.com



【お知らせ】



トロント新移住者協会(NJCA)年次総会

3月27日(金)

◇日系文化会館 6:30pm 受付・懇談・会食、7:15pm 総会

- ◇活動報告、会計報告、推薦理事選出など。
- ◇【新移住者協会と移住者社会の将来を考える】日系団体代表者の意見・希望を聞く。
- ◇その後親睦会。誰でも歓迎。当日会員になれます(年間\$20) 会員申込書は下記に:
<http://www.geocities.com/nobbycosmic2/NJCA/Home/NJCAApplication.pdf>

- ◇食事の準備の都合があります。参加予定者は連絡下さい。
- ◇問い合わせ:長石 tackmy@aol.com / 416-644-1240



NJCA 後援

「浮舟の会」創立10周年記念書展

4月25~26日 (土、日) 正午~5時
(開会式 25日1時) 入場無料

於 モミジ・ヘルスケア・センター
3555 Kingston Rd., Scarborough
(Markham Rd. のすぐ東)

茶菓など用意しお待ちしております。

